

心疾患および脳卒中用の開発中の薬剤

PRESENTED BY AMERICA'S BIOPHARMACEUTICAL COMPANIES

バイオ・医薬品企業、米国民の死因の上位に入る心疾患および脳卒中用治療薬、277種を開発中

バイオ・医薬品企業は、米国民の死因上位3位に入る心疾患および脳卒中の治療薬277種を開発中であり、これらの疾病による死亡率を1950年以降50%以上低下させてきた創薬に対する各社の意気込みが続いていることを示しています。また、Journal of the American Medical Association誌に発表された新しい調査結果によれば、心臓発作で入院している患者の死亡率や心臓麻痺の発症率が1996年以降ほぼ半減しています。これは、コレステロール低下剤、血液抗凝結薬、血管形成術などの優れた新規治療法によるものです。開発中の薬剤はいずれも臨床試験中または米食品医薬品局 (FDA) の承認待ち段階にあります。

米国疾病管理予防センター (CDC) の全国健康統計センターによると、心疾患は1900年以来毎年 (インフルエンザの流行により米国で45万人が死亡した1918年を除く)、疾病による死因の第1位となっています。2002年には米国民の98.4%に相当する85歳以下の年齢層の死因で、がんが心疾患を抜き第1位となりました。脳卒中は第3位でした。

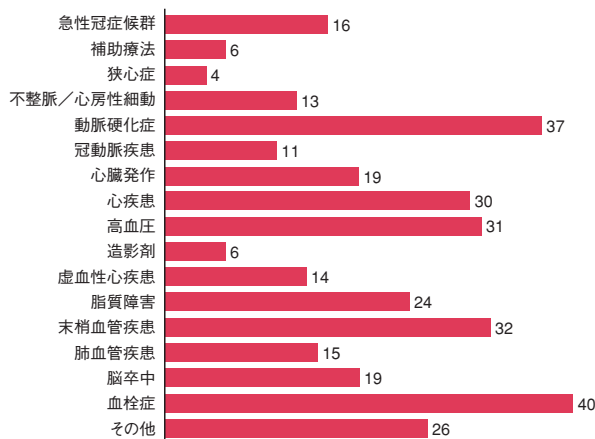
心疾患および脳卒中による死亡率は低下を続けていますが、これには新規薬物療法が大きく貢献しています。米国立心臓血液研究所 (NHLBI) によると、もし死亡率が30年前と変わらなかった場合、現状より毎年81万5,000人多くの米国民が心疾患で、また25万人多くが脳卒中で死亡することとなる、としています。心疾患と脳卒中による死亡率の低下は「過去50年間に薬剤が収めた大きな勝利のひとつである」とハーバード大学ブリガムアンドウィメンズ病院の心臓専門医、ユージーン・ブラウンワルド博士は指摘しています。

NHLBIの関係者は、こうした改善は血圧およびコレステロールを抑える効果的な薬剤の開発による部分が大きいと指摘しています。また、心臓発作の治療法は大きく向上し、25年前には安静するしかなかったものが、今日では心臓発作を未然に防ぐ薬剤のほか、最先端技術を導入した治療法もあります。

しかし、心疾患および脳卒中との戦いに勝利したわけではないと専門家は警鐘を鳴らしています。米国心臓協会によると、米国では36秒ごとに1人が心血管疾患のために死亡しており、およそ8,000万人が心血管疾患に罹患しています。心臓発作の生存者の多くは、520万人の米国民が罹患している慢性疾患である心疾患を発症しています。これらの疾病による米国社会への経済的負担は毎年4,300億ドル (51兆6,000億円*)にも上ります。

*1\$ = 120円にて換算

開発中の心疾患および脳卒中用の薬剤*



※2つ以上の分野に分類されている薬剤もある。

喫煙、肥満、糖尿病といった心血管疾患を引き起こす要因は引き続き大きな懸念事項です。米国心臓協会は、喫煙者が冠状動脈疾患を発症する確率は非喫煙者の2~4倍になると警告しています。体脂肪率の高い人は、他の要因がなくても、心疾患や脳卒中を発症する可能性が高まっています。さらに、糖尿病患者の約4分の3が何らかの心疾患や血管疾患によって死亡しています。

開発中の薬剤には、心疾患治療薬30種、高血圧治療薬31種、心臓発作治療薬19種、脳卒中治療薬19種などがあります。薬剤候補の多くは、次のような最先端技術や新しい科学的アプローチを取り入れています。

- 新しい心筋を形成することで心機能を回復するヒト幹細胞
- 脳卒中を防ぐために血栓の形成を抑える新しい抗凝血剤
- 心房性細動による「善玉」コレステロールの「悪玉」コレステロールへの変化を予防し、「善玉」コレステロールを増やす可能性を秘めているワクチン1種

これらの新薬は、心疾患や脳卒中でこれまで以上の目覚ましい効果を発揮し、患者の生活の質 (QOL:クオリティー・オブ・ライフ) の向上に寄与するでしょう。

米国研究製薬工業協会 (PhRMA)

理事長 ビリー・トーザン